

今年(2004年1月~9月)の陸奥湾の海況について

浅海環境部 技師 大 水 理 晴

今年の陸奥湾の海況自動観測結果から、1月~9月にかけての特異的な現象を簡単にご紹介します。

① 春季(3月~4月)の水温逆転現象

今年は、春先に底層の水温が表層の水温より高

くなる水温の逆転現象が観測されました。これは、湾内の海水の塩分が例年より著しく低めに推移したため、これよりも比重の高い湾外の高温高塩な海水が海底に沿って入り込み、底層に分布したためです(図1)。過去30年間の観測では、1980、1982、1984、1999、2003年に同じ現象がおき

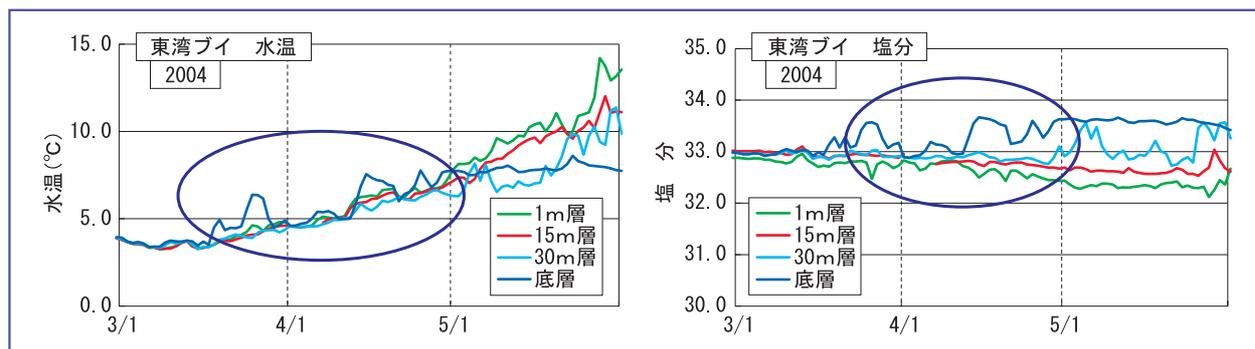


図1 水温逆転現象（3月～5月における東湾ブイの水温と塩分の日平均値の推移）

ました。

② 湾口部における急潮現象

6月14日～15日に湾口部（上磯地域）において一部のホタテガイ養殖施設が潮に流される急潮被害が出ました。例年5月～9月は、南への流れが1年中でもっとも強くなるのが、過去の平館ブイの15m層の流向流速の観測結果からわかっています。この被害が出た時間帯の平館ブイの観測結果から、6月14日の深夜から15日の早朝にかけて急激な水温の上昇と南への強い流れが見られました（図2）。

この湾口部における急潮現象は、過去には1975年7月12日～22日に平館沖合で発生し、多数のホタテガイ養殖施設が流出するという大きな被害をもたらしました。

③ 夏季の高水温

今年の夏季（7月～9月）は猛暑であったことから4年ぶりに高水温になることが懸念されました。ホタテガイの成育好適水温の上限の23℃以上の高水温状態が続くと、へい死等の被害が発生する恐れがあります。しかし、今年は懸念したほどの高水温状態は長続きしませんでした。青森ブイと東湾ブイでは7月下旬から8月上旬にかけて全層で、それ以降は、両ブイの30m層、底層で平年より水温が高かったものの、1m層、15m層では概ね平年並みに推移しました。また、気温も8月中旬以降は平年並みから平年より低めに推移しました（図3）。今年の各ブイ各層での高水温日数（日平均水温が23℃以上の日数）は、平館1m層で23日間、15m層で15日間、30m層で3日間、青森1m層で30日間、

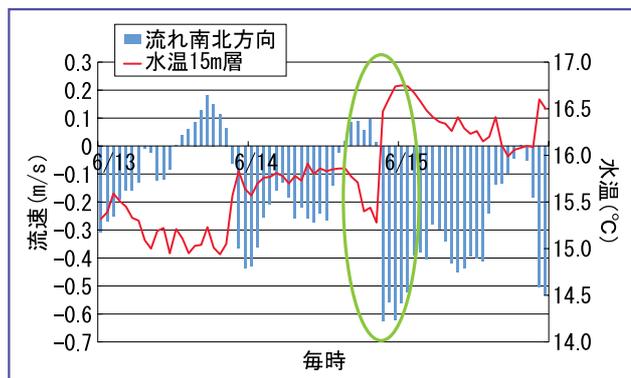


図2 平館ブイの15m層水温と流向流速（6/13～6/15）

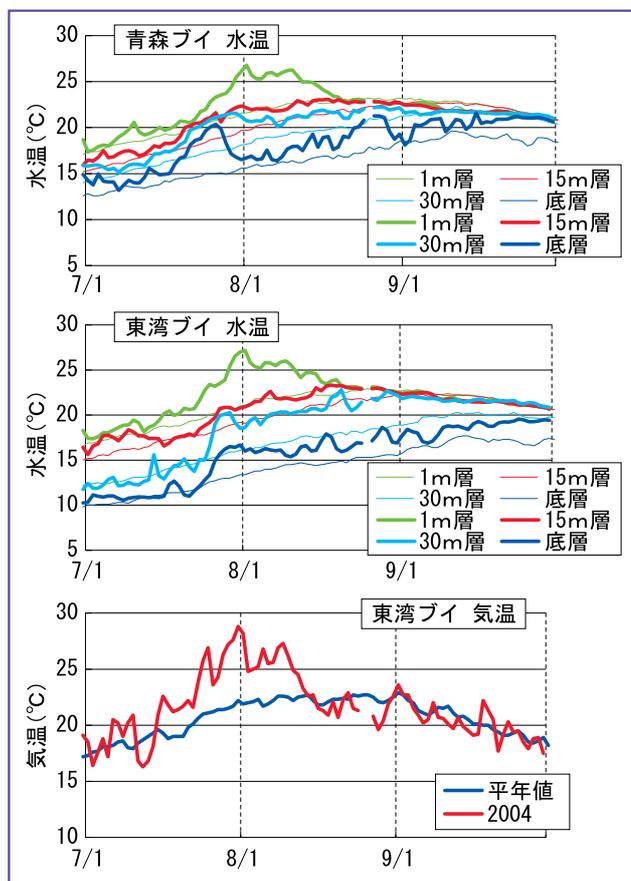


図3 7～9月における青森ブイの水温と、東湾ブイの水温、気温の日平均値の推移（水温の図 太線：実況、細線：平年値）

15m層で4日間、東湾1m層で36日間、15m層で11日間と、1m層では全ブイで20日以上でしたが、ホタテガイの垂下水深帯である15m層から下層では4～15日間にとどまりました。過去の観測で15m層の高水温日数が20日以上となり、ホタテガイの成育に悪影響があったと思われる高水温年は、1975、1978、1985、1990、1994、1995、1997、1999、2000年でした。

2001年（平成13年）12月からは当所のホームページ上に、陸奥湾海況情報（毎週火曜日発行、2001年7月分から）と水温・気温の日平均の図（観測開始から現在までの30年間）を掲載していますので、こちらの情報もご利用下さい。

（青森県水産総合研究センター
増養殖研究所のホームページのアドレス

<http://www.net.pref.aomori.jp/zoshoku>）